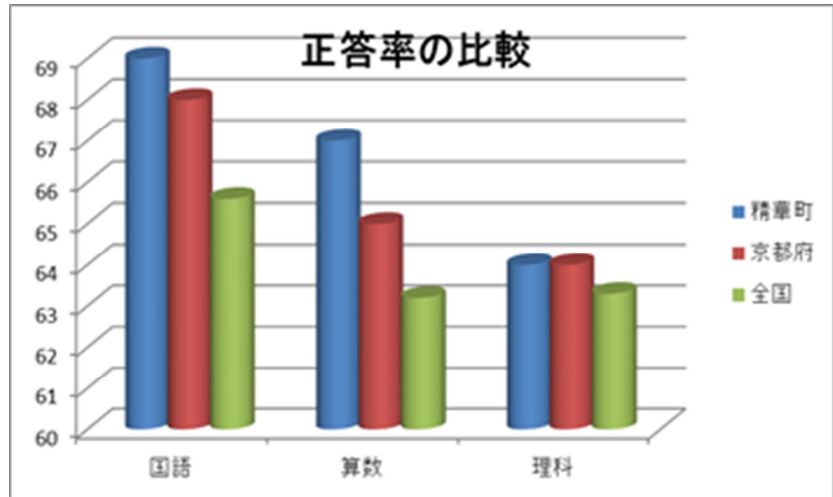


全国学力・学習状況調査の結果

(令和4年4月19日実施)

【小学6年生】

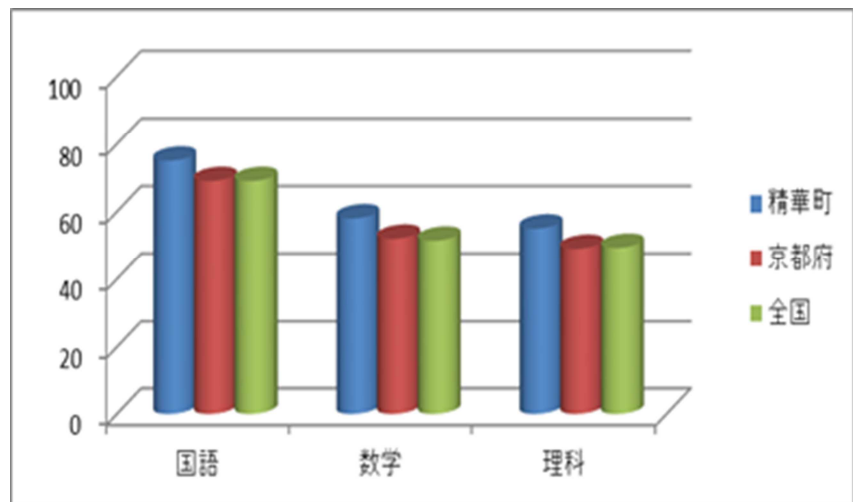


国語の問題では、「登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える」問題は、府平均、全国平均より高く、また「表現の効果を考える」問題では、特に優れていました。しかし、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題では、同じ部分を持つ漢字の誤答があるなど課題が残りました。

算数の問題では、「百分率で表された割合と基準値から、比較量を求める」問題や、「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している」問題は特に優れていました。

理科の問題では、「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる」問題は優れていました。しかし、「器具の理解、正しい使い方」に関する問題では、器具の名称を正しく理解できていないものと考えられ、課題が残りました。

【中学3年生】



国語の問題では、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問題について特に優れており、意図を明確にして話し方を具体的に考える力が付いていると言えます。

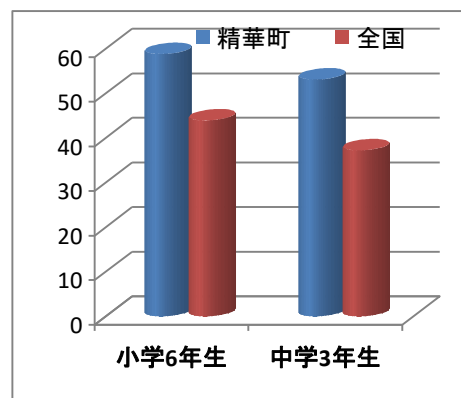
数学の問題では、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の各領域とも全国を上回る結果になりました。特に「数と式」で、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」の問については特に優れていました。

理科の問題では、4つの領域（「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域、「生命」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域）においてバランスよく学習ができていると言えます。「生命」を柱とする領域では、観察結果と知識を関連付けて考察を行う問題が特に優れていました。

授業でのICT機器活用 すすむ！

《1 学習状況について》— 毎日の授業でタブレットを活用 —

「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）」の質問（図1）では、「ほぼ毎日」と回答した児童生徒は、全国と比較して、高い結果となっており、週3回以上と答えた数と合わせると、15ポイントほど全国を上回る結果となっています。授業内で、タブレットを使う時間が増え、使用が日常化してきたと言えます。今後は、更に先に進んで、タブレットの効果的な活用について、小中学校において取組を進めていきます。



《2 学校生活について》— 学校が楽しいと8割以上の児童生徒が回答 —

(図1)

「学校へ行くのが楽しいと思いますか」の質問に対し、小学校6年生、中学校3年生ともに約8割が肯定的な回答をしています。また、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問では、合わせて9割以上の児童生徒が、「当てはまる・どちらかという当てはまる」と回答しています。長引くコロナ禍の中でも、多くの子どもたちが友達と協力することの楽しさを感じていることが分かりました。

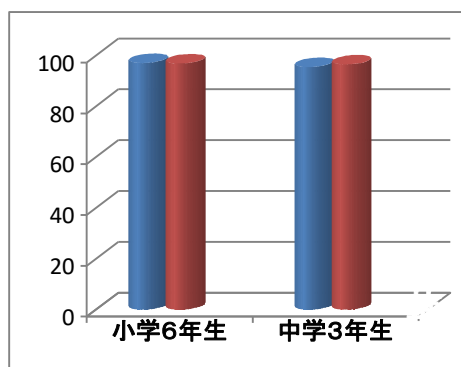
《3 自分自身の事について》— 将来の夢や目標を持つ小学生は約8割 —

「自分には良いところがあると思いますか」の質問では「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学校6年生は、全国平均より若干低く、中学生では、全国をやや上回りました。「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、小学校6年生では約8割の児童が肯定的な回答をし、中学校3年生では約7割の生徒が肯定的な回答をしています。

《4 規範意識について》— いじめはどんな理由があってもいけないこと、意識高く —

「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問では、小学校6年生、中学校3年生の回答の約9割が肯定的な回答でした。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問においても、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしています。

「いじめ」に関する質問（図2）においてもほとんどの児童生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と判断しています。しかし、ごく少数ではありますが、肯定的な回答をしなかった児童生徒がいることから、引き続き道徳教育や人権教育を充実させていく必要があります。



《5 地域社会との関わりについて》— 地域の行事に積極的に参加 —

(図2)

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問では「どちらかといえば参加している」も含めて小学校6年生の66.9%の児童が、中学校3年生で51.6%の生徒が地域の行事に参加しています。毎年この質問についての精華町の児童生徒の回答は、全国平均を大きく上回っています。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の質問でも、小学校、中学校とも全国平均を大きく上回り、将来の精華町を担う子どもたちが、地域に関心を持ち、地域のことを考えていることがわかります。

《6 家庭生活について》— スマートフォン、ゲームは家庭でルールを決めて —

朝食については、小学6年生及び中学3年生ともに90%以上の子どもたちが、ほぼ毎日食べて登校していることがわかりました。この項目は、毎回の調査で高い割合となっています。「普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」の質問では、ゲームをする時間は小中学校ともやや全国を下回っていますが、中学3年生においては、3時間以上ゲームをしている割合が全体の25.7%を示しています。使用のためのルールを決めることは、大切であると考えられます。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っていますか」の質問では、携帯電話・スマートフォンの所持率から考えると、多くの児童生徒が「きちんと守っている・だいたい守っている」と答えています。これは、全国、京都府と比べても、割合が高くなっています。